

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）
施設単位でのがん相談支援センターの周知の取り組み方法の検討：
院内と地域に向けた周知活動について
～九州がんセンターでの取り組み～

研究分担者 藤 也寸志 国立病院機構九州がんセンター（院長）

研究要旨

がん相談支援センターの周知度を高めるには、国民やがん患者・家族を対象とした活動に加えて、まずは足元のがん診療連携拠点病院のスタッフ（特に医師）への認識を向上させる必要がある。また、がん情報の発信や相談を担う地域の人材育成にも目を向ける必要がある。本年度は昨年に引き続き、九州がんセンターにおいて、がん患者・家族だけではなく、医師を中心とした院内スタッフへのがん相談支援センターへの認識を高める活動を継続した。さらに、地域の保険調剤薬局の薬剤師を通じて、がん診療連携拠点病院外、市井におけるがん相談支援体制の構築を図っている。

A. 研究目的

がん相談支援センターの周知度を高めるために、
(1) がん患者・家族だけではなく、医師を中心とした院内スタッフの認識を高める、(2) 地域の保険調剤薬局の薬剤師を通じて、市井におけるがん相談支援体制の構築を図る。

B. 研究方法

1. がん相談支援センターの周知度を高める活動の一環として、診断後間もないがん患者・家族への情報提供資材である『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の活用向上のための活動を計画・実行した。
2. がん相談員と地域の保険調剤薬局の薬剤師を中心とした日本癌治療学会認定・がん医療ネットワークナビゲーターとのコラボレーションを行った。

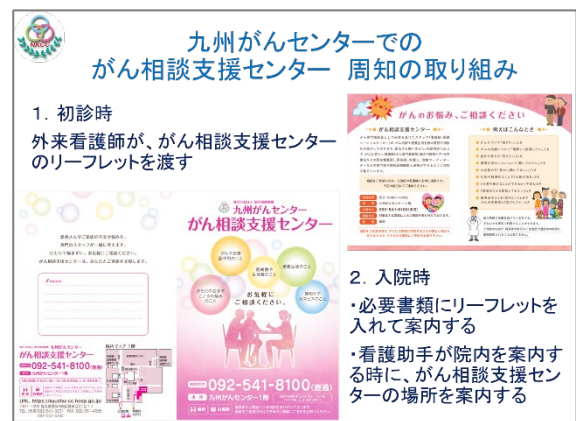
（倫理面への配慮）

本研究における情報の分析・調査については、原則として匿名化したデータを扱うため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考えます。

C. 研究結果

1. がん相談支援センターの周知の取り組み

九州がんセンターでは、外来や病棟において、頻回にがん相談支援センターの周知を進めている。



1-1) 初診時：

- ・ 外来看護師が、がん相談支援センターのリーフレットを渡す。

1-2) 入院時：

- ・ 必要書類にリーフレットを入れて案内する。
- ・ 看護助手が院内を案内する時に、がん相談支援センターの場所を案内する。

2. 『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』
の効率的な配布のための活動：

具体的には、昨年度の分担研究報告書で予定していた以下の活動を実行に移した。

- 2-1) 分担研究者から、がん相談支援センター所属の医師、がん専門相談員に加えて、幹部（院長・副院長・看護部長・事務部長等）へ、本冊子に関して説明を行い、その意義の共通認識を深めた。

2-2) 医師を対象とした説明会の開催：

各診療科部長や医長に対して、本冊子を配布し、その意義や活用方法についての説明を行

った。また、院内e-learningシステムで研究班作成の動画を用いて、全医師に周知した。その際、視聴履歴の確認と視聴の徹底を行った。

2-3) がん専門相談員や入退院支援センター看護師等を中心として同様の説明会を行った。

2-4) 以上に加えて、がん専門相談員を中心として、全病棟に出前講座を頻回に行うことによって、医師や病棟看護師等への認識も高めた。さらに、各部門への説明出前講座を順次開始した。

3. がん医療ネットワークナビゲーターとのコラボレーション:

九州がんセンターがん相談支援センターと地域の保険調剤薬局(4社~5社)のがん医療ネットワークナビゲーターである薬剤師との交流会をWEBにて行った。がん専門相談員とがん医療ネットワークナビゲーターの相互理解や顔の見える連携を通じて、がん患者・家族へのがん相談支援センターの周知向上を図っている。

日本癌治療学会 認定がん医療ネットワークナビゲーター育成制度
第3回 がん医療ネットワークナビゲーター交流会 "福岡"

日本癌治療学会では、日本のがん医療の発展と進歩を促進し、国民の福祉に貢献することを目的として、認定がん医療ネットワークナビゲーター・シニアナビゲーターの育成をおこなっています。ナビゲーター同士の交流を深め、がん医療のネットワークを広げることを目的として、福岡県では定期的に交流会を開催しています。

日時
2022年 6月28日 (火) 19:00~20:00
オンライン (Zoom) 開催 定員30名

対象
認定がん医療ネットワークナビゲーター・シニアナビゲーター
がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター がん専門相談員

内容
司会 吉家 翼 (がん医療ネットワークナビゲーター 大賀薬局)
講義 19:00~19:15
『がん相談支援センターについて ~どんな相談が多いの?~』
九州がんセンター がん相談支援センター
認定がん専門相談員 今村 友紀さん
グループワーク 19:15~19:45
前半『がん相談支援センターとの連携について』
後半『がんナビゲーターとして明日から取り組むこと』
グループワークは、お1人様1台のデバイス (マイク・カメラ付) での参加をお願いします。

左のQRコードを読み込み、表示されるフォームに沿ってお申込みください。
お申込み期限: 6月14日 (火)
企画・お問い合わせ先: (株) 大賀薬局 gannavi.ohga.ph@gmail.com

主催: 日本癌治療学会 認定がん医療ネットワークナビゲーター推進事務局 (九州がんセンター内)

D. 考察

がん診療連携拠点病院によるがん相談支援センターの周知努力は行われているにも関わらず、その国民への周知度の低さは第4期がん対策推進基本計画でも依然として問題になっている。がん相談支援セ

ンターの紹介を目的としたリーフレット等はすでに作られている場合が多いにも関わらず、がん相談支援センターの周知が不十分な実態がある原因としては、配布する側の医師を中心とするスタッフ自身の認識不足がベースにあると考える。九州がんセンターでは、全スタッフのがん相談支援センターへの理解を高めるために、結果に示す多くの活動を行ってきた。これらの活動の基本にあるのは、病院長をはじめとした施設上層部の理解であるが、一方で現場のスタッフ全員への周知ができているかの評価も行う必要がある。

また、国民への確かながん情報を提供するには、がん診療連携拠点病院だけの努力では限界があるのも確かである。第4期がん対策推進基本計画では、相談支援に関する取り組むべき施策の中で、「国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。あわせて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する」と記載されているが、この「社会的人材リソース」は、注釈で「関係学会等によるがんの相談支援・情報提供に関する一定の研修を受け、必要に応じ、がん患者やその家族等に対し、拠点病院等のがん相談支援センターを紹介できる地域の人材等が想定される」と示されている。すなわち、必要とされるがん情報をより多くの国民に届けるには、市井のがん相談に係る人材を育成する必要があることを示しており、がん医療ネットワークナビゲーターを想定しての記載であるとされる。がん診療連携拠点病院のがん専門相談員と顔の見える連携を確立することによって、がん医療ネットワークナビゲーターからがん専門相談員への紹介等が可能になることが期待される。九州がんセンターでは、既にごがん医療ネットワークナビゲーターとの交流会を通じて、保険調剤薬局でのがん相談支援を推進している。全国への展開が望まれる。

E. 結論

がん相談支援センターの周知度を高めるには、国民やがん患者・家族を対象とした活動に加えて、まずは足元のがん診療連携拠点病院のスタッフ (特に医師) への認識を向上させる必要がある。また、がん情報の発信や相談などのための地域の人材育成にも目を向ける必要があると考える。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

I 著書 なし

II 総説 なし

III 原著

1. Toh Y, Morita M, Yamamoto M, Nakashima Y, Sugiyama M, Uehara H, Fujimoto Y, Shin Y, Shiokawa K, Ohnishi E, Shimagaki T, Mano Y, Sugimachi K. Health-related quality of life after esophagectomy in patients with esophageal cancer. *Esophagus*. 19:47-56, 2022
2. Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Ozawa S, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2014. *Esophagus*. 19:1-26, 2022
3. Nakanoko T, Morita M, Nakashima Y, Ota M, Ikebe M, Yamamoto M, Booka E, Takeuchi H, Kitagawa Y, Matsubara H, Doki Y, Toh Y. Nationwide survey of the follow-up practices for patients with esophageal carcinoma after radical treatment: historical changes and future perspectives in Japan. *Esophagus* 19:69-76, 2022
4. Sugiyama M, Uehara H, Shin Y, Shiokawa K, Fujimoto Y, Mano Y, Komoda M, Nakashima Y, Sugimachi K, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Indications for conversion hepatectomy for initially unresectable colorectal cancer with liver metastasis. *Surg Today*. 52:633-642, 2022
5. Ota M, Morita M, Ikebe M, Nakashima Y, Yamamoto M, Matsubara H, Kakeji Y, Doki Y, Toh Y. Clinicopathological features and prognosis of gastric tube cancer after esophagectomy for esophageal cancer: a nationwide study in Japan. *Esophagus* 19:384-392, 2022
6. Yamamoto M, Shimokawa M, Ohta M, Uehara H, Sugiyama M, Nakashima Y, Nakanoko T, Ikebe M, Shin Y, Shiokawa K, Morita M, Toh Y. Comparison of laparoscopic surgery with open standard surgery for advanced gastric carcinoma in a single institute: a propensity score matching analysis. *Surg Endosc*. 36:3356-3364, 2022
7. Shimagaki T, Sugimachi K, Mano Y, Onishi E, Iguchi T, Uehara H, Sugiyama M, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Simple systemic index associated with oxaliplatin-induced liver damage can be a novel biomarker to predict prognosis after resection of colorectal liver metastasis. *Ann Gastroenterol Surg*. 6:813-822, 2022
8. Nishijima T, Shimokawa M, Esaki T, Morita M, Toh Y, Muss HB. Comprehensive geriatric assessment: Valuation and patient preferences in older Japanese adults with cancer. *J Am Geriatr Soc*. 71:259-267, 2022
9. Uehara H, Ota M, Yamamoto M, Nakanoko T, Shin Y, Shiokawa K, Fujimoto Y, Nakashima Y, Sugiyama M, Onishi E, Shimagaki T, Mano Y, Sugimachi K, Morita M, Toh Y. Prognostic significance of preoperative nutritional assessment in elderly patients who underwent laparoscopic gastrectomy for stage I-III gastric cancer. *Anticancer Res*. 43:893-901, 2023
10. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, and Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1. *Esophagus* 16:1-24, 2023
11. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T,

Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, and Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 2. Esophagus 16:25-43,2023

IV 症例報告 なし

V 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし